



帯広三条高で生徒の質問に答えるグリニユークさん

祖国への思い音で表現

帯三条、八中でピアノ演奏

ウクライナ出身 グリニユークさん

ウクライナ出身でオランダ在住のピアニスト、アレクセイ・グリニユークさん（45）が16日、帯広市内を訪れて中学校と高校でコンサートを開いた。戦禍にある祖国を思い、「音楽の力」と平和への願いを込めた。18日は中札内村でもコンサートを開く。

（高井翔太）

生徒ら「一音の大切さ感じた」

グリニユークさんはウクライナの首都キーウで生まれ、18歳で渡英した後は世界各地の音楽祭などで活動。ピアノの国際コンクールで優勝している。

16日は帯広三条高と帯広第八中学を訪問。三条高では同校合唱部とブラスバンド部の100人の前で演奏した。企画したウィーン・

十勝市民交流の会の井口百合香さんと合唱部顧問の豊田端吾教諭とのつながりで実現した。

グリニユークさんは、モーツァルト作曲のピアノ・ソナタ第12番などを弾き、「いろんな演奏を聞きながらも、自分が弾いた音を聞いていくことが大切。自分の色彩を見つけてほしい」

と話した。

25年以上前に離れたウクライナは戦禍にある。音楽の力について、「音を共有することにより感情を共にし、お互いを理解することができる。離れて暮らしていても音によって一つになることができる」と語った。

合唱部部長の佐々木楓乃さん（3年）は「小さい音も大切に演奏しているのを感じた。合唱部でも小さな音を大切に演奏していければと思った」。ブラスバンド部部長の野尻こささん（3年）は「一音一音の音も伝わってきて、素晴らしい音楽だった。その曲の特徴を表そうと演奏している、と話していたので、（部で）生かしていきたい」とヒントを得た様子だった。